

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10304		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-BESE1-00.H							
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	石田 和男				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード： 小論文、読む、書く、話す〕 小論文の書き方についての基本的考え方、そして技術論、そして主題についての構想力の訓練、そのためのグループ・ディスカッション； 聞く、話す、書くことの実践。そのためには普段から本を読む習慣をつけておくことが大切です。そのためには自分の身体をマシンとして機能アップさせることが肝心； 呼吸法、発声法、イメージ作成法、フェルトセンス開発・・・そして実際に主題を対象にマシンを動かして自己開発してゆく。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 身体を使った表現を増すことで、自我に目覚め、自己意識を持つ。そのことでより抜本的に自分の学びの方向はより一層安定する。それから、行動を行う（地域における社会的活動）。そして、自分の可能性の中心が見えてくる。 そして、読み書きから自己表現へ。そして行動できる、実践的主体として活動できるパーソナリティを形成していく。									
到達 目標	そして、読み書きから自己表現へ。そして行動できる、実践的主体として活動できるパーソナリティを形成していく。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	論文の書き方	目的、対象、類書		第16回	「情念」	肉体内の血液の運動				
第2回	問題の場からトピックへ	時間表の作り方、トピック		第17回	「神話の終わり」	健康の真似ををする				
第3回	資料探し	仮読み、カード目録で探す		第18回	「想像力について」	肉体から切り離された魂				
第4回	研究の準備	参考図書と文献カード		第19回	「精神の病」	不幸の重荷は幸福な人に				
第5回	読みと整理	研究カードの作り方		第20回	「気で病む男」	首をすくめ、肺の空気を入れ替える				
第6回	確実なデータ作り	内容、目的、起源、ドキュメント		第21回	「微笑」	自分の筋肉を解きほぐす				
第7回	書く：アウトライン、文章化、下書き	幹線のわかる構造		第22回	「惨劇」	死んだ人は治癒している				
第8回	清書へ	注と文献表、総点検、出来上がり		第23回	「死について」	人間は死を待つことができない				
第9回	小論文の書き方	小論文のアイデア整理		第24回	「態度」	緊張を解くと生命の機能が増す				
第10回	読む	理解する読み方、読む技術		第25回	「体操」	咳止めドロップの効用				
第11回	話す	文法、論理、レトリック		第26回	「祈り」	当然の結果の不条理な説明				
第12回	アラン『幸福論』を読む：「名馬ブケファロス」	苛立ちの原因		第27回	「予言的な魂」	半ば目を覚まし、夢を作り直す				
第13回	「苛立ち」	肉体の運動に従うこと		第28回	「我々の未来」	底荷を捨てて風向きに従え				
第14回	「悲しいマリー」	血球の増減が原因		第29回	「楡の木」	足元を見て、行動せよ				
第15回	「ふさぎの虫」	我慢が肝心		第30回	「心づかい」	決して顔色が悪いと言わぬこと				
評価 方法 及び 評価 基準	平常評価（ディベートの勝敗は評価の対象にはしない。むしろ、毎回、どういう姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような判定を行うかを重視する。）									
課題等	アーキュレーションの練習を通じて、発音の自己開発ができるようになること。はっきり相手に音を伝える学びをする。									
事前事後 学修	事前に、自分で発音のイメージトレーニングをすること。本をたくさん読み、感想文を書くこと。授業後に何を学んだかノートに記しておくこと、1ヶ月ごとに提出すること。									
教材 教科書 参考書	『論文の書き方』 澤田昭夫、講談社学術文庫。ISBN:4-06-158153-8 『幸福論』 アラン、白水Uボックス。ISBN:978-4-560-72098-1									
留意点	演習のため、学生の主体的な参加が大切。みんなで作る授業。たのしく一年間一緒に学びましょう。									

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10305		単位数 時間	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-00.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>年間を通じて、いわゆる「ディベート」を行う。すなわち、一定のテーマについて、例えば、賛成/反対といった立場に分かれるなどして、互いの主張を展開しつつ、相手を論破することを目指す。テーマの選定、司会進行などは、基本的に、履修者が行う。また、テーマの選定のために、図書館の利用や、インターネット等の活用も、適宜行っていく。さらに、ディベートの判定・評価も学生が行う。その場合、自分としてどちらの立場に賛成か・反対かではなく、どちらのディベーターの方がより説得力あるディベートを展開したかで判定する。また、そのように判定するについて、どういところで説得力を見出したかをコメントすることも併せて求める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの11に関連している</p>										
到達 目標	ディベートを通して、「論理的に考え、丹念に調べ、しっかりと発表する」力の修得を図る。議論を恐れず、むしろ議論に親しみ、楽しめる位習熟すれば、たとえば、将来社会福祉の専門職として、援助過程において他専門職との間でも、有意義に議論を重ねることも大いに期待できよう。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ①		第16回	ディベート	ディベートを行う					
第2回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ②		第17回	ディベート	ディベートを行う					
第3回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ③		第18回	ディベート	ディベートを行う					
第4回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ④		第19回	ディベート	ディベートを行う					
第5回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ⑤		第20回	ディベート	ディベートを行う					
第6回	ディベートに向けて	模擬ディベート		第21回	ディベート	ディベートを行う					
第7回	ディベートに向けて	模擬ディベート		第22回	ディベート	ディベートを行う					
第8回	ディベートに向けて	資料・情報の収集		第23回	ディベート	ディベートを行う					
第9回	ディベートに向けて	資料・情報の収集		第24回	ディベート	ディベートを行う					
第10回	ディベート	テーマの設定		第25回	ディベート	ディベートを行う					
第11回	ディベート	ディベートを行う		第26回	ディベート	ディベートを行う					
第12回	ディベート	ディベートを振り返る		第27回	ディベート	ディベートを行う					
第13回	ディベート	テーマの設定		第28回	ディベート	ディベートを行う					
第14回	ディベート	ディベートを行う		第29回	ディベート	ディベートを行う					
第15回	ディベート	ディベートを振り返る		第30回	ディベート	ディベートを行う					
評価 方法 及び 評価 基準	例年と同様に、ディベートの勝敗は評価の対象とはしない。むしろ、毎回、どういう姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような観点で判定を行ったかといったことを評価の対象とする。										
課題等	特になし										
事前事後 学修	事前学修に関しては、ディベーターとしてディベートに向けた準備を綿密に行うこと。事後学修に関しては、ディベートで得られた知見をしっかりと理解できるようにすること。										
教材 教科書 参考書	特に指定しない。										
留意点	どんなに熱い心を持っていようと、ディベートの勝敗等に感情的になりやすい人には履修をすすめない。										

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10306		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-BESE1-00.H							
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	松本 郁代					授業 形態	演習	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 前期：岩波新書程度の文献を読み、書物を読むことに慣れ、レジュメを作成して本の内容を説明することが中心となる。 後期：前期に続いて、文献を読む。図書館で文献を検索し、論文の検索方法を身につける。ディベートを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 学問をするにあたり、学び方の土台を学ぶことによって、丹念に調べ、曖昧な知識ではなく、事実に基づいて論理的に思考する力を身につけることが、このゼミには求められる。									
	到達 目標	学問に取り組むうえで、最低限必要となる基礎的な力を身につける。曖昧なネット情報のみで発言する学生がいるが、科学的根拠のある情報を合理的に入手し、それを読み解き、人に伝えたり、意見を交換することが出来るようになること。								
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ゼミ開き	自己紹介・ゼミの概要説明		第16回	読み書き報告①	岩波新書を読んで報告⑩				
第2回	読み書き	文献の読み方およびレジュメの書き方		第17回	読み書き報告②	岩波新書を読んで報告⑪				
第3回	初めての報告	岩波新書を読んで報告①		第18回	読み書き報告③	岩波新書を読んで報告⑫				
第4回	報告に慣れよう	岩波新書を読んで報告②		第19回	読み書き報告④	岩波新書を読んで報告⑬				
第5回	判りやすいレジュメ	岩波新書を読んで報告③		第20回	読み書き報告⑤	岩波新書を読んで報告⑭				
第6回	図書館利用の方法①	図書館探検		第21回	読み書き報告⑥	岩波新書を読んで報告⑮				
第7回	奥付とは	岩波新書を読んで報告④		第22回	図書館利用の方法③	文献検索自由自在				
第8回	章・節・項	岩波新書を読んで報告⑤		第23回	ディベートとは	ディベートの基礎知識				
第9回	単行本とは	岩波新書を読んで報告⑥		第24回	ディベートのテーマ	ディベートのテーマを考える				
第10回	雑誌論文とは	岩波新書を読んで報告⑦		第25回	ディベート、その前に	科学的根拠のある意見とは				
第11回	目次を見よう	岩波新書を読んで報告⑧		第26回	図書館利用の方法④	文献検索実行				
第12回	あとがきに注目	岩波新書を読んで報告⑨		第27回	ディベートに臨む	ディベートで対戦①				
第13回	図書館利用の方法②	図書館検索をしてみよう		第28回	再びディベート	ディベートで対戦②				
第14回	前期レポート執筆①	書評とは何か		第29回	ディベートで書く	議論した内容を文字にする				
第15回	前期レポート執筆②	書評を書く		第30回	一年間のまとめ	ゼミの成果を確認する				
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点70%、レポート（上記到達目標に照らして評価する）30%									
課題等	毎回、全員同じ範囲を読んで、レジュメを提出すること。範囲は、その都度指定する。									
事前事後 学修	一般的に大学における学習は、文献を読むことを前提としている。そのことから、岩波新書を毎日1頁程度読むことになる。読んでレジュメを作成すること。またその際、読めない漢字は、漢和辞典で調べ、判らない意味の言葉は、国語辞典を中心に調べて、テキストに書き込んでおくこと。									
教材 教科書 参考書	森 靖雄（2014）『シリーズ 大学生の学びをつくる 大学生の学習テクニック』大月書店、ISBN:978-4-272-41324-1 村上 陽一郎（2020）『コロナ後の世界を生きる-私たちの提言』岩波新書、ISBN:978-4-00-431840-8									
留意点	辞書類を必ず持参すること。電子辞書可（ただし、充電しておく、電池のスペアを持ってこることなど、不測の事態に対処できるようにしておくこと）。									

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10307		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年	
		科目ナンバリング	W-BESE1-00.H								
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	棟方 達也				授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の所属先として、ゼミ生どうしのコミュニケーションや親睦を重視します。 ・演習としては、書籍、マスメディア、インターネット等、様々な情報源からスポーツに関する題材を取り上げ、課題を見出し、考察します。(情報リテラシー教育) また、合わせてppt.を使用した報告、発表の仕方を実践的に学びます。(プレゼンテーション能力) ・ゼミ伝統の「岩木山登山」は必須課題です。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及び3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>										
到達 目標	スポーツや身体に関する個別研究(各自で研究課題を設定し、適切な方法で調べまたは実践し結論を出す。)をレポートにまとめ、発表(ppt.)する。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	顔合わせ	ガイダンス、自己紹介、スケジュールの確認等		第16回	岩木山登山報告	報告書作成と振り返り(行動記録、写真等を整理し、報告書にまとめておくこと)					
第2回	親睦	レクリエーション活動		第17回	個別研究に向けて	個別研究の構想から発表までの流れを確認する。					
第3回	大学における学習活動の基本事項	『学士力向上のためのガイドブック』の解説(事前に目を通して頂くこと)		第18回	個別研究:計画1	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定 ・テーマの絞り込み ・構成(日頃から自身が関心の持てる、スポーツや身体に関するテーマについてアンテナを張り巡らせておくように) 					
第4回	情報源と情報収集1	文献の調べ方		第19回	個別研究:計画2						
第5回	情報源と情報収集2	インターネット情報の扱い方		第20回	個別研究:計画3						
第6回	情報収集と検証1	オリンピックに関するネット情報の収集と検証 情報発信元による比較 信憑性の確認 等		第21回	個別指導1		個別に進捗状況を確認し指導する。(指導を受けていない時間は、各自、図書館やインターネットの利用、記述の時間として活用する。)各自の研究テーマにより方法が異なるので、日程に余裕を持った計画的な進め方が求められる。				
第7回	情報収集と検証2			第22回	個別指導2						
第8回	情報収集と検証3			第23回	個別指導3						
第9回	情報収集と検証4			第24回	個別指導4						
第10回	情報収集と検証5			第25回	個別指導5						
第11回	親睦	ランチパーティー		第26回	個別指導6						
第12回	岩木山を知る	岩木山について様々な角度から情報収集し発表する(項目を分担し発表の準備)		第27回	研究成果の提出	内容の最終確認					
第13回	登山の計画と準備	計画の立て方、地図の使い方 等		第28回	報告集作成	全員のレポートを印刷し1冊に綴じる					
第14回	登山の計画と準備	コース計画、装備計画、飲食計画 他		第29回	発表の準備	発表用ppt.作成(冬休み中に準備しておくことが望ましい)					
第15回	ゼミ登山	岩木山登山	夏休み中	第30回	発表	ppt.等を使用した、研究発表会					
評価 方法 及び 評価 基準	ゼミへの参加状況(出欠、遅刻、早退)、前期課題および後期の個別研究を点数化し、総合的に評価する。課題については、指導に従い、指定された形式でまとめられているかを評価する。また、特に個別研究では、オリジナリティを重視する。										
課題等	より信憑性の高い情報を求め、その情報源(出典)を明確に示すこと。										
事前事後 学修	インターネット以外の情報源(本、雑誌、新聞 など)に目を向ける。										
教材 教科書 参考書	『学士力向上のためのガイドブック』										
留意点	パソコンを使用したレポート作成や発表を原則とするので、各自、ノートパソコンを所有すること。										

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10309	単位数 時間	4単位 60時間	対象学年	1年	開講学期	通年
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	高橋未央			授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 文章の作法について学ぶ：①説明的な文章を読む ②他者の説明や発表を聞く ③質問をして理解を深める ④これらを繰り返して、「批判的に読む・聞く」「自ら調べる」「論理的に説明する」ことを練習する								
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP3、CP1に関連している								
到達目標	指定した文献を読み、理解したことを発表し議論することを繰り返し、これらのトレーニングによる技能を得ることと定着させることを目指します。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ①	指定した地理に関する文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して、「仕事の文書」の書き方を学びます。 「仕事の文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効です。 また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にははっきり話すことに慣れていきます。さらに、他人の発表を聞いて、質問することで、きちんと聞いて理解し、疑問点を整理することを体験します。		第16回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ①	指定した地理に関する文献を取り上げ、皆で分担して読みます。調べながら読むことはもちろんですが、内容をまとめた「レジメ」を作成し、資料を示して話すことで、発表の方法をさらに向上させます。また、ひとりの発表について、全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返します。			
第2回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ②		第17回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ②					
第3回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ③		第18回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ③					
第4回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ④		第19回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ④					
第5回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑤		第20回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑤					
第6回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑥		第21回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑥					
第7回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑦		第22回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑦					
第8回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑧		第23回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑧					
第9回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑨		第24回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑨					
第10回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑩		第25回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑩					
第11回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑪		第26回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑪					
第12回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑫		第27回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑫					
第13回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑬		第28回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑬					
第14回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑭		第29回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑭					
第15回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑮		第30回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑮					
評価方法及び評価基準	学年末のレポート 60% 授業への参加状況（発表・質問の回数など） 40%								
課題等	自分の担当箇所の発表および他の個所で質問をする必要があります。質問に答えられなかった箇所が宿題になります。教科書からも宿題が出題されます。								
事前事後学修	自分の担当箇所の発表準備と他の個所の質問を考えておく必要があります。								
教材教科書参考書	前・後期に講読する書籍								
留意点	教科書以外にも、題材にする書籍（新書本などからゼミで選んだもの）の購入が必要となります。								

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10310		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-BESE1-00.H							
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 本演習は大学での学びに必要な、基礎的な学習技術の習得を目指す。すなわち、文章を読む方法、情報を集める方法、文章を書く方法、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。これらを身につけるために、前期はテキストを使用して学び、後期は文献講読を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
	到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を論理的に読めるようになる ・信頼性の高い情報を集められるようになる ・論理的な文章を書けるようになる ・他人に伝わるプレゼンテーションをできるようになる ・独りよがりにならない議論をできるようになる 								
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第2回	大学での学習の仕方	高校生と大学生の違い、時間管理		第17回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第3回	大学での学習の仕方	ノートの取り方		第18回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第4回	文章の読み方	アカデミックな文章の特徴		第19回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第5回	文章の読み方	文章を分析的に読む		第20回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第6回	文章の読み方	要約の仕方		第21回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第7回	情報の集め方	資料の種類		第22回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第8回	情報の集め方	図書館の使用法		第23回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第9回	情報の集め方	インターネット上の情報		第24回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第10回	文章の書き方	文章の構成法		第25回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第11回	文章の書き方	文章の構成法		第26回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第12回	文章の書き方	分かりやすい表現方法		第27回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第13回	発表の仕方	プレゼンテーションの種類と特徴		第28回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第14回	発表の仕方	レジュメの作り方		第29回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第15回	発表の仕方	人前でプレゼンの仕方		第30回	文献読解・発表・議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、報告を総合的に評価する									
課題等	課題の検討は授業時間内に行う									
事前事後 学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	前期：①上田紀行編『新・大学でなにを学ぶか』岩波書店 ②学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版 後期：講読する文献（新書2冊程度）は、授業時間内に決めます									
留意点										

科目名	障害者の生涯学習【2017年度入学生】 /生涯学習【2016年度入学生】		科目コード	W21026/W21027	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	担当	W-BFBE1-01	時間	30時間						
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	立花 茂樹 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害のある人々の生涯にわたる教育権・学習権は国際的なレベルでも確認されている。本授業では、障害のある人々が種々の困難を乗り越えて生涯学習の活動に参加し、また、学ぶ機会の拡大を獲得していくためには、社会がどうあればよいかをディスカッションや「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成を通して考えていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達 目標	<p>1 障害のある人々の学校教育終了後の学びと社会参加の現状と課題について、ディスカッションにより理解を深める。</p> <p>2 障害のある人々の生涯にわたる学びの保障と推進・拡充のあり方について、自分の意見を述べることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 生涯学習の定義と障害者と生涯学習			学習の進め方（LTD話し合い学習法）について説明する。 生涯学習の歴史と「障害者の生涯学習」に関する我が国の取り組みを配布資料及び「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の報告」等を通して知る				予習シートのDL・ULは、Webを利用して行う		
第2回	障害者権利条約と生涯学習			教科書の「はじめに」及び「序章 障がい者権利条約と生涯学習の保障」を通読し、障がい者の学びが権利について意見交換する				グループディスカッション		
第3回	生涯学習の場で学ぶ障害のある青年・成人の声を聴く			教科書「第1章 友だちと学ぶのは楽しい」を読み、障害者自身の語る言葉を通して、障害者にとっての生涯学習の意義と必要性を理解する				グループディスカッション		
第4回	地域・施設における青年学級の実践			教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第1節「那賀青年学級（和歌山）」と第2節「スマイル青年」（東京）の実践を通して青年学級の役割を考える				グループディスカッション		
第5回	地域・施設における青年学級の実践			教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第3節「ハスの実の家」（福井）と第4節「われらの大学校」（滋賀、京都）の実践を通して「障害の重い人にとっての学び」と「知的障害のある人々の高等教育」について考える				グループディスカッション		
第6回	大学におけるオープンカレッジの実践			教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第1節「オープンカレッジ東京（東京学芸大学）」の実践を通して、大学を活用した生涯学習講座の意義とその運営の在り方を探る				グループディスカッション		
第7回	大学におけるオープンカレッジの実践			教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第2節「愛知県立大学におけるオープンカレッジ」の実践を通して、発達障害のある青年への生涯学習支援について考える				グループディスカッション		
第8回	障害のある人のスポーツ			教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第1節「スポーツ分野における障がいのある人の生涯学習」を読み、障害者スポーツの現状と障害のある人だれでもがスポーツを学び楽しむことのできる環境整備について考える				グループディスカッション		
第9回	障害のある青年・成人期への性と生の学習			教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第2節「いのち・愛・性を学ぶ障がい当事者たち」を読み、障害のある青年・成人期への性と生の学習の大切さを考える				グループディスカッション		
第10回	すべての人々の生活・人生における学びの保障			教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第1節「障がい者社会教育のとりえ方と課題」を読み、障害のある人々を含むすべての人々の生活・人生にとっての学習保障を考える				グループディスカッション		
第11回	公的な障害者の学習機会拡充の取り組み			教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第2節「名古屋市における公的な障がい者社会教育」を通して、公的な障害のある人々の社会教育の拡充を図るための課題と方策を学ぶ				グループディスカッション		
第12回	障害者の生涯学習を推進するために私たちがしなければならないこと			学生を数グループに分け、それぞれが障害者支援グループであると想定して、「（※）障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画案を作成する （※）はグループで自由に設定した障害名とする				グループワーク		
第13回	報告会「これからの障害者の生涯学習」			企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの難しさや楽しさを味わう				グループワーク		
第14回	報告会「これからの障害者の生涯学習」			企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの難しさや楽しさを味わう				グループワーク		
第15回	障害のある人々の生涯学習支援			教科書「終章 障がい者の生涯学習支援の展望と課題」の第2節「断続性と任意の『生涯学習』から権利としての生涯にわたる学び・発達支援へ」を読み、障害者の生涯学習についての各自の考えをまとめる				グループディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>○予習シートの作成55%、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成30%、授業への参加態度15%で評価する。</p> <p>・予習シートは1回分を5点とし、第2回～第11回及び第15回の11回分を作成する。</p> <p>【知識・技能】及び【思考・判断・表現】の観点から評価する。</p> <p>・企画・運営計画の作成は、【思考・判断・表現】の観点から評価する。</p> <p>・参加態度については、【主体的に学習に取り組む態度】の観点から評価する。</p> <p>※いずれも別添の評価基準により評価する。</p>									
課題等	作成した予習シートを授業日の午前10時までに提出すること。									
事前事後 学修	第2回以降、授業計画にある主題及び授業内容に関する予習シートを作成し、授業中のディスカッションに備えること。 授業後は、ディスカッションで出された意見を参考に振り返りを行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書：田中良三・藤井克徳・藤本文朗編著（2016）『障がい者が学び続けるということ』新日本出版社 ISBN978-4406059794 そのほか、随時プリントを配布する。									
留意点	※企画・運営計画案の作成は、授業時間内だけでは難しい場合もあることから、メンバー間で空き時間等を調整して自主的・主体的に進めてほしい。									

科目名	大学生のためのソーシャルスキル	科目コード W21022 W-BFBE1-02	単位数 2単位 30時間	対象 学年 1年	開講 学期 前期
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	松本 郁代・坂井 任	授業 形態 講義 オムニバス
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 ソーシャルスキルを定義したうえで、社会の中で生きていく際に必要とされる問題解決方法や対処の仕方について講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 社会福祉の専門職となるには、専門的知識と同様に社会性が要求される。また、一般企業で働く際にも、ソーシャルスキルは、不可欠である。この講義では、専門職以前の当たり前の社会性を身につける科目である。</p>				
到達 目標	社会性を身につけた、当たり前の大人になること。				
授 業 計 画					
回	主 題	授 業 内 容			備 考
第1回	ソーシャルスキルとは何か	講義計画、ソーシャルスキルの定義			
第2回	ソーシャルスキルの基礎知識	ソーシャルスキルと対人関係、大学生活における対人関係			
第3回	7つの基本的なソーシャルスキル	ノンバーバルコミュニケーションとは			
第4回	真似したいノンバーバルな要素	ノンバーバルコミュニケーション攻略法			
第5回	真似したくないコミュニケーション	コミュニケーション禁句集			
第6回	良い話相手になる為のスキル	自慢話だけではないコミュニケーション			
第7回	良い聴き手になる為のスキル	傾くだけではないコミュニケーション			
第8回	つまづいた時のソーシャルスキル	人間関係に悩む時、友人からのサポートを受けたい時			
第9回	リアクションは、社会人の第一歩	教職員とのコミュニケーションの注意点			
第10回	報告は、社会人の基本	講義受講のマナーと相談後のデューティー			
第11回	挨拶が出来ますか	研究室を訪れる時のマナー			
第12回	ハラスメントの基礎知識	学生から教員へのハラスメント？			
第13回	危険回避のためのソーシャルスキル	不当請求・架空請求・不法侵入の危険回避			
第14回	情報リテラシーのためのスキル	インターネット・コミュニケーションにおけるソーシャルスキル			
第15回	社会人になるためのソーシャルスキル	面接のテクニックだけで就職できるのか？			
評価 方法 及び 評価 基準	各講義における小テスト（短答式・客観式）を積み上げて、評価する。				
課題等	それぞれの時間に指示をする。				
事前事 後学修	指示した持参物の準備をすること。				
教材 教科書 参考書	橋本 剛（2008）『ライブラリー ソーシャルスキルを身につける 5——大学生のためのソーシャルスキル』 ISBN: 978-4-7819-1183-0				
留意点	私語・遅刻厳禁。講義に出席する学生として、この二つは最低限のルール。坂井担当部分については、6月頃に予定しているが、詳細は講義中に知らせる。				

科目名	英語 I A		科目コード	W24010	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-01		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	<p>簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	イントロダクション		自分に関する自己紹介の練習							
第2回	簡単な英語表現（1）		自分の心身の状態を述べる							
第3回	簡単な英語表現（2）		人の性格・性質を述べる							
第4回	簡単な英語表現（3）		今日の状況・曜日を述べる							
第5回	簡単な英語表現（4）		眼前の物を述べる							
第6回	簡単な英語表現（5）		現在進行中の出来事を述べる							
第7回	簡単な英語表現（6）		存在物を述べる							
第8回	簡単な英語表現（7）		場所を述べる							
第9回	簡単な英語表現（8）		物の内容について述べる							
第10回	簡単な英語表現（9）		日時について述べる							
第11回	簡単な英語表現（10）		願望を述べる							
第12回	少し複雑な英語表現（1）		未来の出来事を述べる							
第13回	少し複雑な英語表現（2）		これからすることを述べる							
第14回	少し複雑な英語表現（3）		予想を述べる							
第15回	少し複雑な英語表現（4）		確信を述べる							
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果（60点）、期末試験（40点）で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事後 学修	事後復習は必要です。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。									

科目名	英語 I B		科目コード	W24011	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-02		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	少し複雑な英語表現（1）		必要・義務を述べる							
第2回	少し複雑な英語表現（2）		感動を述べる							
第3回	少し複雑な英語表現（3）		すでに行ったことを述べる							
第4回	少し複雑な英語表現（4）		決心を述べる							
第5回	少し複雑な英語表現（5）		忘れたことを述べる							
第6回	少し複雑な英語表現（6）		願望を述べる							
第7回	高度な英語表現（1）		文句を言う							
第8回	高度な英語表現（2）		自分であればどうするかを述べる							
第9回	高度な英語表現（3）		時間やお金に余裕がある・ないを述べる							
第10回	高度な英語表現（4）		人にアドバイスを与える							
第11回	高度な英語表現（5）		外国でエンターテインメントを探す							
第12回	高度な英語表現（6）		アンケートに回答する							
第13回	高度な英語表現（7）		食事に関する表現の練習							
第14回	高度な英語表現（8）		ペットについて述べる							
第15回	総復習		総復習を行う							
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果（60点）、期末試験（40点）で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事後 学修	事後復習は必要です。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									

科目名	英語 I C		科目コード	W24012	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-03		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	澤田 真一				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	導入		イントロダクション							
第2回	ディスカッション		なぜ英語を勉強するのか							
第3回	コミュニケーション1		自己表現							
第4回	コミュニケーション2		自己表現							
第5回	ライティング1		英語で詩を書く							
第6回	ライティング2		詩の鑑賞・説明							
第7回	ビデオ		鑑賞							
第8回	ディスカッション		スクリプトの読解							
第9回	コミュニケーション3		写真を用いた家族の紹介							
第10回	リーディング1		ノン・フィクション							
第11回	リーディング2		ノン・フィクション							
第12回	リーディング3		ノン・フィクション							
第13回	スピーチ1		英語での弁論							
第14回	スピーチ2		英語での弁論							
第15回	試験		まとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができているかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題を出します。									
課題等 事前事後 学修	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。 授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。 準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。									
教材 教科書 参考書	授業時にプリントを配布します。									
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	英語 I D		科目コード	W24013	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-04		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	澤田 真一			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	導入		イントロダクション							
第2回	コミュニケーション1		対話の仕方							
第3回	コミュニケーション2		対話の仕方							
第4回	ライティング1		英語で物語を書く							
第5回	ライティング2		エディティング							
第6回	ライティング3		物語の鑑賞・説明							
第7回	ビデオ		鑑賞							
第8回	ディスカッション		スクリプトの読解							
第9回	コミュニケーション3		本の紹介							
第10回	リーディング1		フィクション							
第11回	リーディング2		フィクション							
第12回	リーディング3		フィクション							
第13回	スピーチ1		英語での弁論							
第14回	スピーチ2		英語での弁論							
第15回	試験		まとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペイション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができてきているかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題をします。									
課題等	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。									
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書	授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。 準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。授業時にプリントを配布します。									
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	ドイツ語A		科目コード	W24014	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-05		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	田中 岩男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	[授業の主旨] [キーワード: 聞く・話す・書く] ドイツ語の基礎的な運用能力(聞く・話す・書く)を養う。 ドイツ語の学習を通して、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	つづりと発音 (1)		アルファベットと簡単な挨拶							
第2回	つづりと発音 (2)		母音と子音、数の読み方							
第3回	ホンダミカと申します(1)		1課: 人称代名詞と動詞のかたち							
第4回	ホンダミカと申します(2)		1課: 練習問題と演習							
第5回	何を飲むの? (1)		2課: 名詞の性と語順							
第6回	何を飲むの? (2)		2課: 練習問題と演習							
第7回	そのカサイいくらですか(1)		3課: 定冠詞と名詞の格							
第8回	そのカサイいくらですか(2)		3課: 練習問題と演習							
第9回	コーヒー1杯ください(1)		4課: 不定冠詞とその仲間							
第10回	コーヒー1杯ください(2)		4課: 練習問題と演習							
第11回	バスは何時に出ますか(1)		5課: 不規則に変化する動詞 (1)							
第12回	バスは何時に出ますか(2)		5課: 練習問題と演習							
第13回	何を注文する?(1)		6課: 不規則に変化する動詞 (2)							
第14回	何を注文する?(2)		6課: 練習問題と演習							
第15回	まとめ		前期の総まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	出席状況・授業への参加度・定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度(出席状況を含む)50% 定期試験50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。									
課題等	各課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復誦します。									
事前事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	「イン・ドイチュラントードイツ語インフォメーション 映像付」 (朝日出版社) [ISBN 978-4-255-25388-6]を教科書として使います。 「やさしい! ドイツ語の学習辞典」(同学社) [ISBN 978-4-8102-0005-8]を辞書として推薦します。									
留意点	もう1コマの「ドイツ語」と共通教科書を使い、連携して理解を深めます。楽しみながら、新しいことに挑戦するつもりで積極的に参加してください。									

科目名	ドイツ語B		科目コード	W24015	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBEO-06		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	田中 岩男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	[授業の主旨] [キーワード: 聞く・話す・書く] ドイツ語の基礎的な運用能力(聞く・話す・書く)を養う。 ドイツ語の学習を通して、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期復習		復習とコミュニケーション演習							
第2回	カフェに行きましょう (1)		7課: 前置詞の使い方							
第3回	カフェに行きましょう (2)		7課: 練習問題と演習							
第4回	写真を撮っていい? (1)		8課: 助動詞の用法							
第5回	写真を撮っていい? (2)		8課: 練習問題と演習							
第6回	列車は何時に出るの? (1)		9課: 分離する動詞の用法							
第7回	列車は何時に出るの? (2)		9課: 練習問題と演習							
第8回	サッカーに興味ある? (1)		10課: 再帰動詞とその用法							
第9回	サッカーに興味ある? (2)		10課: 練習問題と演習							
第10回	モーツァルトだったよね? (1)		11課: 動詞の三基本形と過去時称							
第11回	モーツァルトだったよね? (2)		11課: 練習問題と演習							
第12回	ミュンヘンで何を見物したの? (1)		12課: 現在完了形とその用法							
第13回	ミュンヘンで何を見物したの? (2)		12課: 練習問題と演習							
第14回	総復習		復習とコミュニケーション演習							
第15回	まとめ		後期の総まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	出席状況・授業への参加度・定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度(出席状況を含む)50% 定期試験50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。									
課題等	各課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復誦します。									
事前事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	「イン・ドイチュラントードイツ語インフォメーション 映像付」 (朝日出版社) [ISBN 978-4-255-25388-6]を教科書として使います。 「やさしい! ドイツ語の学習辞典」(同学社) [ISBN 978-4-8102-0005-8]を辞書として推薦します。									
留意点	もう1コマの「ドイツ語」と共通教科書を使い、連携して理解を深めます。楽しみながら、新しいことに挑戦するつもりで積極的に参加してください。									

科目名	ドイツ語C		科目コード	W24016	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-07		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>① ドイツ語で挨拶ができる。</p> <p>② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	発音の基礎(1)		挨拶・つづりと発音を学ぶ(1)							
第2回	発音の基礎(2)		挨拶・つづりと発音を学ぶ(2)							
第3回	自己紹介(1)		公的な場面・距離のある相手に対して							
第4回	自己紹介(2)		私的な場面・距離のない相手に対して							
第5回	質問する・答える(1)		「はい」「いいえ」を使って答える							
第6回	質問する・答える(2)		「はい」「いいえ」を使わずに答える							
第7回	買い物する(1)		数詞を学ぶ / 値段を尋ねる・答える							
第8回	買い物する(2)		店に入って買い物する							
第9回	～はありますか？(1)		「あります！」と答える							
第10回	～はありますか？(2)		「ありません」と答える							
第11回	電話で友達を誘う(1)		電話の表現・誘いかけの表現(1)							
第12回	電話で友達を誘う(2)		電話の表現・誘いかけの表現(2)							
第13回	カフェで注文する		友達と何を頼むか相談してから注文する							
第14回	総復習(1課～6課)		プリントで学習内容を総復習							
第15回	まとめ(1課～6課)		学習内容を総仕上げ							
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・ 授業への参加度を重視します。 									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は「イン・ドイチュラント」(朝日出版社)[ISBN978-4-255-25388-6] (社会福祉学部のドイツ語は共通教科書を使い連携して理解を深めます)									
留意点										

科目名	ドイツ語D		科目コード	W24017	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBEO-08		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>① ドイツ語で挨拶ができる。</p> <p>② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	思い出そう！		前期に学んだ内容を復習する							
第2回	～は？～を？・何時ですか？		～は～を愛している・いま何時ですか？							
第3回	道を尋ねる・教える(1)		道案内に役立つ表現を学ぶ(1)							
第4回	道を尋ねる・教える(2)		道案内に役立つ表現を学ぶ(2)							
第5回	ニュアンス表現(1)		～できますか？～をしてもよいですか？など							
第6回	ニュアンス表現(2)		～したいのですが、～しなければならない、など							
第7回	ユニークな動詞		ユニークな動詞を使ってドイツ語の語順について理解する							
第8回	依頼する・何時に～する		命令(依頼)する・「～時に～する」と時刻を話題にする							
第9回	古い車・私の車は古い		「古い」などの形容詞を使う時に注意すること							
第10回	「自分」・趣味の話をする		「自分」表現・「好きなこと」について話す・尋ねる							
第11回	過去を表現する(1)		過去のことを話す(1)							
第12回	メール・カードを書く		クリスマス・新年・誕生日を祝う表現、メールやカードを出す時に							
第13回	過去を表現する(2)		過去のことを話す(2)							
第14回	総復習(6課～12課)		プリントで学習内容を総復習							
第15回	まとめ(6課～12課)		学習内容の総仕上げ							
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・授業への参加度を重視します。 									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は「イン・ドイチュラント」(朝日出版社)[ISBN978-4-255-25388-6] (社会福祉学部のドイツ語は共通教科書を使い連携して理解を深めます)									
留意点										

科目名	フランス語A		科目コード	W24018	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-09		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	松山 和子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけではなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	フランス語で自己紹介ができるようになる！									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	挨拶と教室で使う表現		フランス語のアルファベット・発音と綴り字について・挨拶							
第2回	名前、国籍、出身地を言う①		第1課：ディアローグを聞く→本文の内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第3回	名前、国籍、出身地を言う②		第1課：前回の学習内容の復習→応用と実践（自分の名前・国籍・出身地を言う）							
第4回	職業、住んでいるところ、話せる言語を言う①		第2課：ディアローグを聞く→本文の内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第5回	職業、住んでいるところ、話せる言語を言う②		第2課：前回の学習内容の復習→応用と実践（自分の職業、住んでいるところ、話せる言語を言う）							
第6回	持ち物についてたずねる①		第3課：ディアローグを聞く→本文の内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第7回	持ち物についてたずねる②		第3課：前回の学習内容の復習→応用と実践（持ち物についてたずねる）							
第8回	好き嫌いを言う①		第4課：ディアローグを聞く→本文の内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第9回	好き嫌いを言う②		第4課：前回の学習内容の復習→応用と実践（好き嫌いについて話す）							
第10回	行先を言う①		第5課：ディアローグを聞く→本文の内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第11回	行先を言う②		第5課：前回の学習内容の復習→応用と実践（行先について話す）							
第12回	家族を紹介する①		第6課：ディアローグを聞く→本文の内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第13回	家族を紹介する②		第6課：前回の学習内容の復習→応用と実践（家族について話す）							
第14回	前期の復習①		自己紹介文を作り発表						プレゼンテーション	
第15回	前期の復習②		他己紹介文を作り発表						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題は期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回授業の終わりにその日のポイントをまとめますので、しっかり復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新・オン プラティック！』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35274-9 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語B		科目コード	W24019	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-10		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	松山 和子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけではなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	フランス語で簡単な会話ができるようになる！									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	日付を言う		季節、月、休暇、行事（フランスの）について							
第2回	カフェで注文する		カフェの飲み物、食べ物についての紹介→グループに分かれ、カフェのシーンを演じる。						ロールプレイング	
第3回	食べ物、飲み物などを勧める①		第7課：ディアローグを聞く→内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第4回	食べ物、飲み物などを勧める②		第7課：前回の学習内容の復習→応用と実践（朝食について話す）							
第5回	位置関係を示す①		第8課：ディアローグを聞く→内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第6回	位置関係を示す②		第8課：前回の学習内容の復習→実践と応用（室内の家具の配置を説明する）							
第7回	贈り物の相談をする①		第9課：ディアローグを聞く→内容と文法の説明→音読と発音練習→グループに分かれてパートナーと読み合わせを行う。						グループワーク	
第8回	贈り物の相談をする②		第9課：前回の学習内容の復習→応用と実践（贈り物の相談）							
第9回	過去の行為、出来事を語る①		第10課： 複合過去形1（文法の説明→例文）							
第10回	過去の行為、出来事を語る②		第11課： 複合過去形2（文法の説明→例文）							
第11回	過去の行為、出来事を語る③		第10課と第11課のまとめ： 過去にしたことについて話す							
第12回	過去の状態や習慣を語る、感想を述べる		第12課：状態を表す過去形の説明→感想を述べる。							
第13回	過去形のまとめ		過去形の復習→冬休みにしたこと、しなかったことについて。							
第14回	後期の復習①		日常生活について話す（現在形）						プレゼンテーション	
第15回	後期の復習②		冬休みにしたことについて話す（過去形）						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題は期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回授業の終わりにその日のポイントをまとめますので、しっかり復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新・オン プラティック！』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35274-9 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語C		科目コード	W24020	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-11		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
	到達 目標	外国語に苦手意識がある場合はその解消をし、他者や他国のことを知る楽しさに目覚める(1)。自分や周りの人やモノについて、フランス語で説明できる(2)。(2)に必要なフランス語の基礎的文法知識や発音の規則が身につけている(3)。								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	アルファベ		自分の名前を言う／アルファベ (暗記)						グループワーク	
第2回	主語人称代名詞、他者の名前を言う		他者の名前とそのスペルをアルファベで言う						ペアワーク	
第3回	国籍の女性形		自分や他者の国籍を言う／国籍の女性形の作り方を理解する							
第4回	動詞 être 活用		動詞 être を使って国籍や出身地を言う						プレゼンテーション	
第5回	職業の女性形		動詞 être 活用小テスト→職業の女性形の作り方理解、口頭練習							
第6回	第一群規則動詞(1)		話せる言語、住んでいる都市を言う／第一群規則動詞活用練習						ペアワーク	
第7回	第一群規則動詞(2)		第一群規則動詞小テスト→第一群規則動詞の正しい発音→問題演習							
第8回	名詞の性と定冠詞		好みを言う、名詞の性と定冠詞の用法を理解する						ペアワーク	
第9回	動詞 avoir 活用		avoir を使って自分や他者の年齢を言う						ペアワークとプレゼンテーション	
第10回	動詞 avoir 活用と不定冠詞		動詞 avoir を使って兄妹構成を言う／活用練習問題						ペアワーク	
第11回	否定文と否定の冠詞 de		avoir 小テスト→avoir を使ったさまざまな慣用表現練習						ペアワーク	
第12回	動詞 aller 活用		行き先を言う／体調を言う							
第13回	前置詞と定冠詞の縮約		行き先と交通手段を言う						ペアワーク	
第14回	中性代名詞 y		第12、13回の内容を練習問題で確認する							
第15回	前期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	課題や小テストは次回授業に返却します。不十分な場合は再テスト・再提出を課します。									
事前事後 学修	前回授業の復習を一日あたり30分以上行って出席して下さい。また授業で適宜フランス事情や文化を紹介し、関連参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	北村亜矢子他著 Nouveau On pratique ! 『新・オン・プラティック! -使える・発音(はな)せるフランス語』(朝日出版社) ISBN 978-4-255-35274-9 C1085									
留意点	文法理解を目標とする授業ですが、対話しながら仏語のしくみをみなさん自身で発見できるような授業形式を取りますので、質問や意見などの発言を大いに歓迎します。欠席した場合、授業内容や次回までの課題・小テストの有無をクラスメートに確認するか、右記の担当教師アドレスに問い合わせてください: lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	フランス語D		科目コード	W24021	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-12		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
	到達 目標	自分の意思や行動を仏語で説明できる(1)、(1)に必要な文法の基礎や発音の規則が身についている(2)、英語以外の外国語に触れることでより幅広い視野と関心を獲得し、自己と自己を取り巻く環境を複眼的に観察できる(3)								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期の復習、所有形容詞(1)「私の」		自分の家族を紹介する							
第2回	所有形容詞(2)「君の」「彼女の」		他者の家族構成を尋ねる、説明する						ペアワーク	
第3回	所有形容詞のまとめ		問題演習で理解を深める							
第4回	動詞 vouloir 活用、部分冠詞(1)		不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の概念を整理する							
第5回	動詞 prendre 活用、部分冠詞(2)		部分冠詞の定着、朝食のメニューを説明する							
第6回	中性代名詞 en/il y a「～がある」		prendre, vouloir小テスト→テーブルにあるものを説明する							
第7回	場所を説明する前置詞(句)(1)		建物の位置を説明する						ペアワーク	
第8回	場所を説明する前置詞(2)、色の形容詞		モノの位置関係を説明する						ペアワーク	
第9回	形容詞の性数一致/形容詞の位置(原則)		問題演習を通して形容詞の文法規則の定着をはかる							
第10回	形容詞の位置(例外)		形容詞の総まとめ/「良い～を！」の表現							
第11回	複合過去(助動詞avoir)		過去分詞の作り方、週末を語る(1)							
第12回	複合過去(助動詞être)		過去分詞の性数一致、週末を語る(2)							
第13回	複合過去まとめ/時刻を尋ねる、言う(2)		複合過去問題演習→「時刻を尋ねる・言う」ための表現							
第14回	時刻を尋ねる、言う(2)		「～分」の注意すべき表現						ペアワーク	
第15回	後期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	課題や小テストは次回授業に返却します。不十分な場合は再テスト・再提出を課します。									
事前事後 学修	前回授業の復習を一日あたり30分以上行って出席して下さい。また授業で適宜フランス事情や文化を紹介し、関連参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	北村亜矢子他著 Nouveau On pratique! 『新・オン・プラティック! -使える・発音(はな)せるフランス語』(朝日出版社) ISBN 978-4-255-35274-9 C1085									
留意点	文法理解を目標とする授業です。したがって、前期開講の「フランス語IC」で学んだ内容が基礎として不可欠です。その理解が不十分と自分で感じた場合は「フランス語IC」の復習をためらわないでください。また、欠席した場合、授業内容や次回までの課題・小テストの有無をクラスメートに確認するか、右記の担当教師アドレスに問い合わせてください: lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	中国語 A		科目コード	W24022	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-13		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	中国語の基礎的文法、発音、会話を身につけること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	単母音、複母音の練習		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第2回	単母音、複母音の練習		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第3回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第4回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第5回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第6回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第7回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第8回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第9回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第10回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第11回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第12回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第13回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第14回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第15回	復習、まとめ		習った基礎文法や文型の復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ五回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	中国語B		科目コード	W24023	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-14		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	中国語の発音、基礎文法、基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	助動詞、反復疑問文		助動詞や文型を教える。							
第2回	助動詞、反復疑問文		助動詞や文型を教える。							
第3回	前置詞（介詞）、从、到、离		前置詞や文型を教える。							
第4回	前置詞（介詞）、从、到、离		前置詞や文型を教える。							
第5回	存在文、在		存在文の文型を教える。							
第6回	存在文、在		存在文の文型を教える。							
第7回	動態助詞 “得” の使い方		中国語 “助詞” の特徴について							
第8回	動態助詞 “得” の使い方		中国語 “助詞” の特徴について							
第9回	過去の経験を表す文型 “过”		“过”について過去の経験を言い表す文型を教える。							
第10回	過去の経験を表す文型 “过”		“过”について過去の経験を言い表す文型を教える。							
第11回	受け身の表現		受け身の例文を教える。							
第12回	受け身の表現		受け身の例文を教える。							
第13回	自己紹介の言い方		自己紹介に関する具体的な例文を教える。							
第14回	自己紹介の言い方		自己紹介に関する具体的な例文を教える。							
第15回	復習・まとめ		総合復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ五回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	中国語C		科目コード	W24024	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-15		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	中国語の発音、基礎文法、基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	単母音、複母音の特徴		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第2回	単母音、複母音の特徴		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第3回	子音の特徴		子音の特徴、発音の要領							
第4回	子音の特徴		子音の特徴、発音の要領							
第5回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第6回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第7回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第8回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第9回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第10回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第11回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第12回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第13回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第14回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第15回	復習・まとめ		習った基礎文法や文型の復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ五回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	中国語D		科目コード	W24025	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-16		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	中国語の発音や基礎文法と基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	助動詞、反復疑問文		助動詞や文型を教える。							
第2回	助動詞、反復疑問文		助動詞や文型を教える。							
第3回	前置詞（介詞）、从、到、离		介詞と文型を教える。							
第4回	前置詞（介詞）、从、到、离		介詞と文型を教える。							
第5回	存在文、在について		存在文と文型を教える。							
第6回	存在文、在について		存在文と文型を教える。							
第7回	動態助詞”得”		動態助詞”得”の文型を教える。							
第8回	動態助詞”得”		動態助詞”得”の文型を教える。							
第9回	過去の経験を表す文型“过”		助詞の使い方を教える。							
第10回	過去の経験を表す文型“过”		助詞の使い方を教える。							
第11回	現在進行形		“在”について現在進行形の文型を教える。							
第12回	現在進行形		“在”について現在進行形の文型を教える。							
第13回	時刻、時間を表す詞		時刻や時間の使い方を教える。							
第14回	時刻、時間を表す詞		時刻や時間の使い方を教える。							
第15回	復習・まとめ		総合復習							
評価方法及び評価基準	授業への取り組み10% 発音テスト30、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材教科書参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ五回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。									

科目名	韓国語 A		科目コード	W24026	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-17		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 別紙掲載 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	韓国語Ⅱ		科目コード	W24027	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-18		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 韓国語の日常会話を中心に、良く使われる語彙や表現を習得する。韓国語を「話す、聞く、読む、書く」の4機能全てを強調しながら授業を進めて行く。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 韓国語の会話・語彙・聞き取り練習を通してより高度な韓国語会話ができるようになる。 2. 韓国語の文章を書くことができるようになる。 3. 韓国語の文化を理解することができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	会話・文法・文章①		動詞の現在連体形、先行動詞の用法						ペアワーク	
第2回	会話・文法・文章②		動詞の現在連体形、先行動詞の用法						ペアワーク	
第3回	会話・文法・文章③		形容詞の現在連体形、名詞文の現在連体形						ペアワーク	
第4回	会話・文法・文章④		ㄷ不規則活用、ㄹ不規則活用						ペアワーク	
第5回	会話・文法・文章⑤		ㄴ不規則活用、ㄹ不規則活用						ペアワーク	
第6回	会話・文法・文章⑥		ㅇ不規則活用、並列表現						ペアワーク	
第7回	会話・文法・文章⑦		話者の意志・約束						ペアワーク	
第8回	会話・文法・文章⑧		完了状態の継続						ペアワーク	
第9回	会話・文法・文章⑨		過去・現在・未来の推量						ペアワーク	
第10回	会話・文法・文章⑩		理由表現・時間の経過						ペアワーク	
第11回	会話・文法・文章⑪		推測・予測						ペアワーク	
第12回	会話・文法・文章⑫		話者の願望						ペアワーク	
第13回	会話・文法・文章⑬		間接話法一疑問文						ペアワーク	
第14回	会話・文法・文章⑭		間接話法一平叙文						ペアワーク	
第15回	まとめ		後期のまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1. 授業への参加度（33%）、2. 中間試験（33%）、3. 期末試験（34%） 授業への参加度については、出席と宿題と質問応答で評価します。中間試験と期末試験については、授業で学んだ日本語を韓国語に、韓国語を日本語に翻訳できるかを判断します。</p>									
課題等	授業中のパフォーマンスや課題などの訂正やコメントをする。									
事前事後 学修	教科書の内容を予め精読して準備し、講義後は理解した事柄を整理する。予習と復習のために一週間に最低5時間を費やすこと。									
教材 教科書 参考書	初回の講義において担当教員が知らせる。									
留意点	毎回講義に欠席や遅刻をせず、積極的に参加し、予習・復習をし、しっかりと韓国語を取得することを要望する。									

科目名	韓国語C		科目コード	W24028	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-19		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 別紙掲載 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	韓国語D		科目コード	W24029	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-20		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 韓国語の日常会話を中心に、よく使われる語彙や表現を習得する。韓国語を「話す、聞く、読む、書く」の4機能全てを強調しながら授業を進めて行く。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 韓国語の会話・語彙・聞き取り練習を通してより高度な韓国語会話ができるようになる。 2. 韓国語の文章を書くことができるようになる。 3. 韓国語の文化を理解することができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	会話・文法・文章①		動詞の現在連体形、先行動詞の用法						ペアワーク	
第2回	会話・文法・文章②		動詞の現在連体形、先行動詞の用法						ペアワーク	
第3回	会話・文法・文章③		形容詞の現在連体形、名詞文の現在連体形						ペアワーク	
第4回	会話・文法・文章④		ㄷ不規則活用、ㄷ不規則活用						ペアワーク	
第5回	会話・文法・文章⑤		ㄹ不規則活用、ㄹ不規則活用						ペアワーク	
第6回	会話・文法・文章⑥		ㅇ不規則活用、並列表現						ペアワーク	
第7回	会話・文法・文章⑦		話者の意志・約束						ペアワーク	
第8回	会話・文法・文章⑧		完了状態の継続						ペアワーク	
第9回	会話・文法・文章⑨		過去・現在・未来の推量						ペアワーク	
第10回	会話・文法・文章⑩		理由表現・時間の経過						ペアワーク	
第11回	会話・文法・文章⑪		推測・予測						ペアワーク	
第12回	会話・文法・文章⑫		話者の願望						ペアワーク	
第13回	会話・文法・文章⑬		間接話法一疑問文						ペアワーク	
第14回	会話・文法・文章⑭		間接話法一平叙文						ペアワーク	
第15回	まとめ		後期のまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1. 授業への参加度（33%）、2. 中間試験（33%）、3. 期末試験（34%） 授業への参加度については、出席と宿題と質問応答で評価します。中間試験と期末試験については、授業で学んだ日本語を韓国語に、韓国語を日本語に翻訳できるかを判断します。</p>									
課題等	授業中のパフォーマンスや課題などの訂正やコメントをする。									
事前事後 学修	教科書の内容を予め精読して準備し、講義後は理解した事柄を整理する。予習と復習のために一週間に最低5時間を費やす。									
教材 教科書 参考書	初回の講義において担当教員が知らせる。									
留意点	毎回講義に欠席や遅刻をせず、積極的に参加し、予習・復習をし、しっかりと韓国語を取得することを要望する。									

科目名	海外研修 I		科目コード	W24030	単位数 時間	1単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFBE0-21		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] This course will prepare students for study abroad in the United States with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University study abroad program in Western countries. [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達 目標	This course is a study abroad preparation course that will prepare students for their experience abroad in the United States. Students will learn how to interact with Americans, deal with cultural differences during study abroad, and will understand the differences between Western and Japanese cultures.									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	Course Orientation and Program Introduction		Instructor explains course objectives and university study abroad programs.							
第2回	On the Plane		Students will learn about what to expect when traveling to their study abroad experience & practice in pairs.						Create a dialogue	
第3回	Airport Arrival Procedures		Students will learn what to expect when they arrive at the airport and practice going through customs and immigration in pairs.						Fill out customs forms	
第4回	Meeting the Host Family		Students will learn what to expect when they meet their homestay family and practice greetings in pairs.						Create a dialogue	
第5回	Sharing Japanese Culture		Students will consider how and what to share about Japanese culture. They will also discuss gifts for host families as a class.						Explain a Japanese gift	
第6回	Taking the Bus		Students will learn how to use public transportation in America. Japanese Cultural Portfolio will be explained.						Cultural Portfolio Page	
第7回	Orientation		Students will learn what to expect when they begin orientation at their study abroad university.						Cultural Portfolio Page	
第8回	Making Phone Calls		Students will practice using the phone in English and discuss communications methods used with friends in pairs and groups.						Cultural Portfolio Page	
第9回	Seeking Medical Care		Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad in America.						Cultural Portfolio Page	
第10回	Giving Presentations		Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.						Cultural Portfolio Page	
第11回	Shopping		Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.						Cultural Portfolio Page	
第12回	Airport Departure Procedures		Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.						Cultural Portfolio Page	
第13回	Keeping in Touch		Students will discuss how to keep in touch with friends and their host family after returning to Japan						Cultural Portfolio Page	
第14回	Cultural Portfolio Presentation		Students will present their cultural portfolios.						Cultural Presentation	
第15回	Review and Feedback		Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.							
評価 方法 及び 評価 基準	Classroom participation: 10%; Cultural book report (graded on English accuracy and content using a rubric): 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%.									
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments.									
事前事後 学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 30 mins. / day.									
教材 教科書 参考書	Go! Global-Preparing for ESL Courses Abroad, Lieb (2015), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33448-7]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have access to a smartphone or notebook computer for classroom activities.									
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible. Students are required to purchase new books-no sempai books allowed.									

科目名	海外研修Ⅱa (アメリカ)		科目コード	W24031	単位数 時間	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	後期集中
			科目ナンバリング	W-BFBE0-22		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 This course provides students with credit for participating in study abroad programs sponsored by Hirosaki Gakuin University to approved study abroad program. 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達 目標	This course documents credits transferred from Hirosaki Gakuin University-approved Study Abroad programs in the United States or other accredited English-speaking universities. Students must successfully complete a Hirosaki Gakuin University-sponsored study abroad program to receive credit for this course.									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
<p>The content for this course is based on the curriculum and syllabus of the study abroad program attended. Each program is unique and students must complete all parts of the program to receive credit.</p>										
評価 方法 及び 評価 基準	Successful completion of study abroad programs will be reported by the host institute.									
課題等	Students must follow the rules of the host institute for the study abroad program.									
事前事後 学修	Students must complete the preparation work required by the study abroad program before going to study abroad.									
教材 教科書 参考書	Textbooks will be determined by each study abroad program' s staff.									
留意点	Hirosaki Gakuin University students must complete 100% of study abroad program requirements unless given an exception by the host institute due to special circumstances.									

科目名	海外研修Ⅱb(韓国)		科目コード	W24032	単位数 時間	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	後期集中
			科目ナンバリング	W-BFBE0-23		30時間				
区分	基盤領域科目	選択	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 本科目は本学と提携を結んでいる韓国姉妹提携大学（ソウル神学大学校、釜山外国語大学校、倍花女子大学校、釜山科学技術大学校）が提供している短期間の語学研修プログラムや交換留学プログラムに参加する本学生が単位取得が認められる。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達 目標	各韓国姉妹提携大学の短期研修プログラムや交換留学プログラムを成功的に履修することによって単位取得をし、習得した単位が本学によって読み替えられ個人の獲得した単位となること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	<p>この科目は姉妹提携大学校が提供している科目であるため科目授業内容は大学によって異なる。 各々のプログラムはとて特色があり興味深いものである。 全ての学生は単位を取得するために積極的な参加が必要である。</p>									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	韓国提携姉妹大学の科目担当の教員による成績評価がなされた後、本学に成績表が送付される。									
課題等	韓国提携姉妹大学の科目担当の教員によって決められる。									
事前事後 学修	事前準備のために海外研修ⅠBの履修が望まれる。									
教材 教科書 参考書	韓国提携姉妹大学の科目担当の教員によって決められる。									
留意点	研修プログラムや交換留学プログラムに参加する全ての学生は全面的なプログラムへの参加が求められている。									